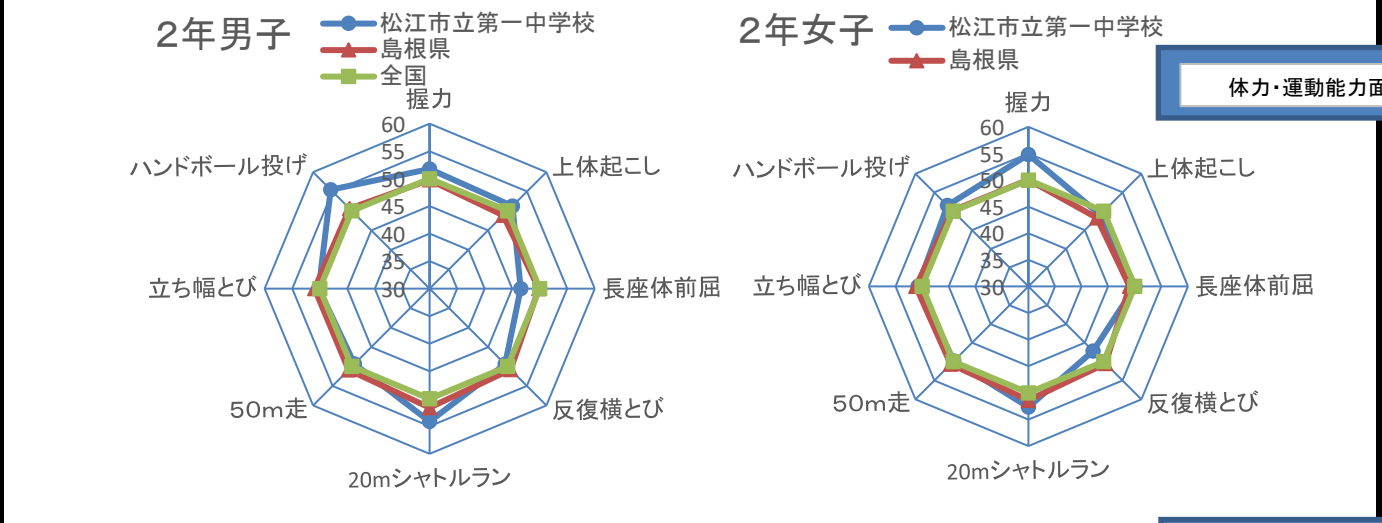
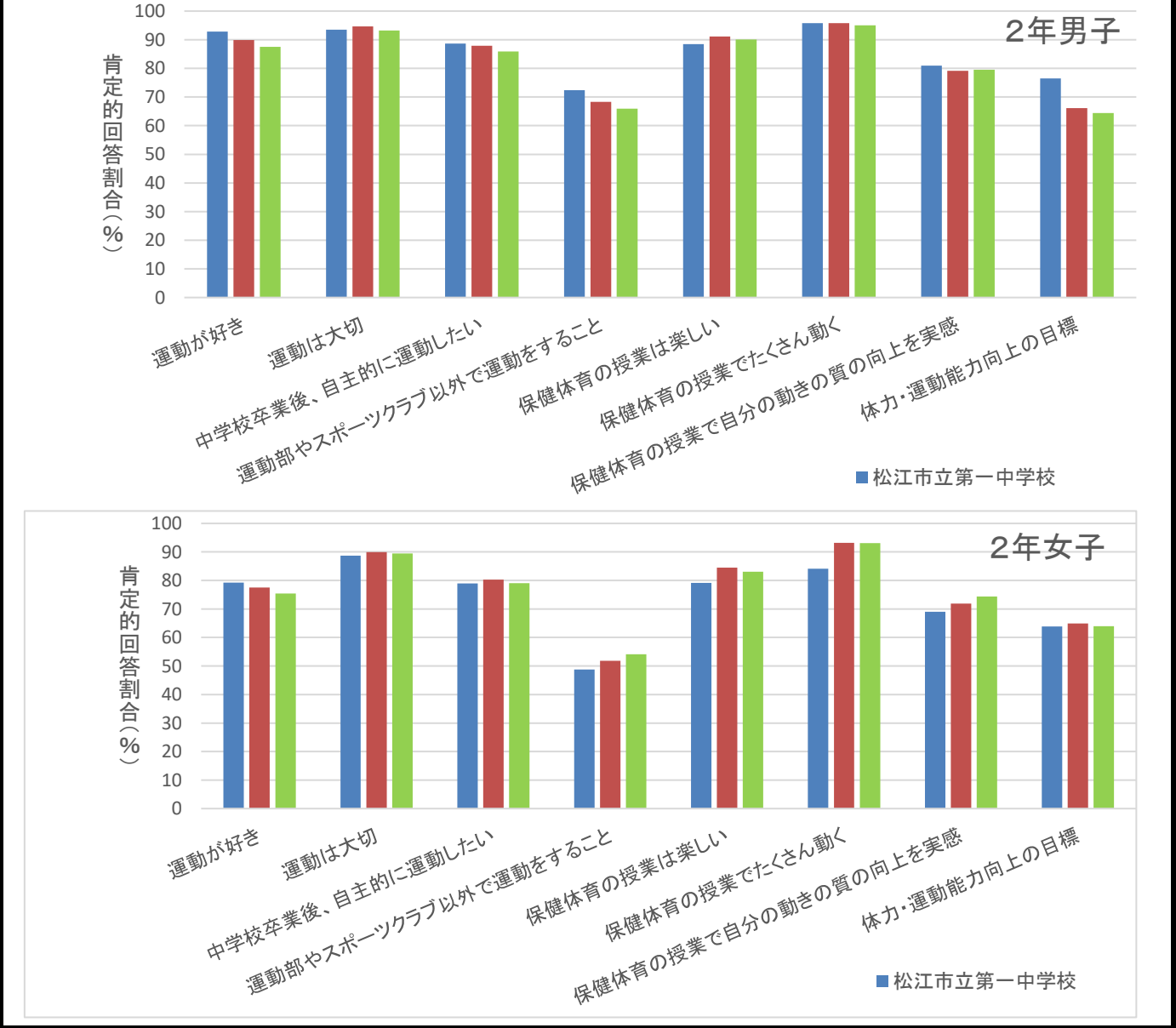


(1) 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)

(2) 調査結果の分析



全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査＜意識調査＞の結果
(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



① 体力・運動能力面

| |
|--|
| 強み |
| ○男子では「握力」「上体起こし」「シャトルラン」「立ち幅跳び」「ハンドボール投げ」が全国平均を上回っている。特に「全身持久力」が強み。 ○女子では「握力」「長座体前屈」「シャトルラン」「立幅跳び」「ハンドボール投げ」が全国平均を上回っている。特に「筋力」「全身持久力」が強み |
| 課題 |
| ●男子では「長座体前屈」「50m走」が全国平均を下回り、特に「柔軟性」が課題。 ●女子では「上体起こし」「50m走」において全国平均を下回り、特に「筋持久力」「走力」が課題。 |
| 次年度の対策 |
| 保健体育授業の取り組み ・柔軟性を意識したウォーミングアップの実施。 ・「走る」ことを増やす取り組みを継続して行う。 ・4月実施の新体力テストの分析を行い、自分の体力に合わせた計画を立てる。 |

② 意識面

| |
|---|
| 強み |
| ○男子では「運動が好き」「運動部やスポーツクラブ以外で運動すること」「体力・運動能力の目標」の割合が全国平均よりも高い。 ○女子では「運動が好き」の割合が全国平均よりも高い |
| 課題 |
| ●男子では「保健体育の授業は楽しい」の割合が全国平均よりも低い。 ●女子では「運動部やスポーツクラブ以外で運動すること」「保健体育の授業は楽しい」「保健体育の授業でたくさん動く」「保健体育の授業で自分の動きの質の向上を実感」の割合が全国平均よりも低い。 |
| 次年度の対策 |
| 保健体育授業の取り組み ・タブレットを活用し、スポーツを「する」「見る」「支える」といった視点を生徒たちに実感させる授業展開を行う。 ・「質の向上」を狙った単元計画や授業展開を進める。 |

(3) 令和4年度の方針【学校全体での取組】

- ① 体力向上や体育授業に関する校内研修会等の計画について
・保健体育課教員の中で情報を共有したりT、Tを実施したりするなど生徒への支援体制は充実しておりR4年度も継続していく。
・定期的に集まり、授業の評価を行う。
- ② 体育科授業の工夫・改善について
・タブレットの活用
→全員配備されたことで、自分自身やグループの出来をリアルタイムで確認することができるようになった。体力的な課題や運動に対する苦手意識のある生徒でも、客観的に分析をすることができる。動画や写真をヒントとして自分自身の活動に評価をし、改善していく姿を期待している。
また、二極化を防ぐためにもこのタブレットの活用は欠かせない。運動が苦手な生徒やケガの生徒もスポーツに参加し、分析し、アドバイスができるといった好循環を生むことができる。
・体力向上計画
→週1回の体力作りは継続していく。ランキングを掲示することで、生徒の意欲は上がってきている。その成果として女子駅伝チームは県大会3位の成績を残すことができた。
男女ともに「走る」ことに対する抵抗感は薄れてきており、R4年度も継続していく。
- ③ 体育授業以外の活動の工夫について
・体育祭を学習発表の場と位置付けし、年間をとおしてダンス授業を行い、発表を行う。
- ④ 家庭・地域、近隣の学校・園等との連携、情報発信について
・地域の人材を生かす授業展開を検討する。